

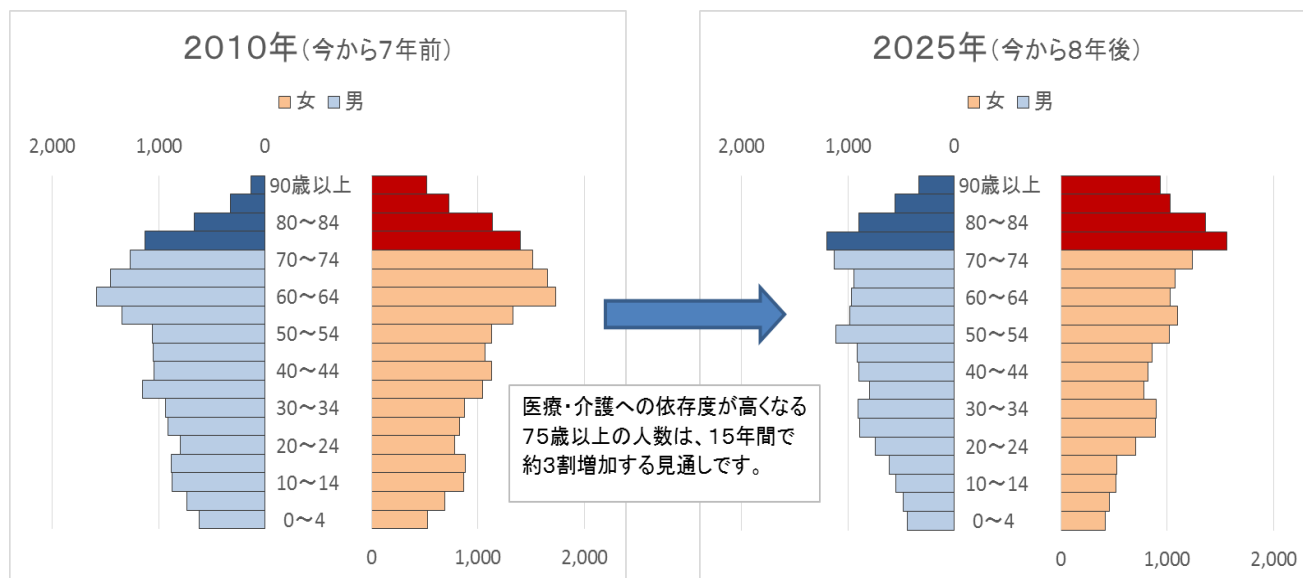
## 第 回 医療と介護の連携

地域包括ケアシステムってなに？

今から8年後の西暦2025年には、団塊世代のすべてが75歳以上の後期高齢者になります。備前市でも、2010年から2025年までの15年間で、後期高齢者の人口は1.3倍に膨らむ見通しです（図1）。一方、備前市の死亡原因の内訳では、がん、心疾患、脳卒中といった生活習慣病が約半数を占めており、実際に多くの高齢者がこれらの病気を抱えながら生活されています。後期高齢者の増加に伴い、生活習慣病のような完全に治しきれない病気を持つ高齢者が今後ますます増えていくことが予想されます。

しかし、高齢になって病気や障がいを抱えても、心豊かに暮らしたいと願う人々の思いは変わりません。「人生の質」や「生活の質」を保ちながら、それぞれが自分らしく生活できる社会の実現を目指して、現在、民間の事業所やボランティア、NPO、行政、それに地域の皆さんが協力して、地域で支え合うための環境づくりやしくみづくりを進めています。これが「地域包括ケアシステム」と呼ばれるものです。

図1 備前市の人口ピラミッド



平成29年2月1日(水)

備前市在宅医療・介護連携推進協議会資料 ②

“顔の見える関係づくり”の研修の一つ「多職種ミーティング」。医師や薬剤師、リハビリの専門職、ケアマネジャーやホームヘルパー、相談員などが一同に集まり、在宅療養の事例紹介や地域の課題とその解決策などを話し合います。

「医療・介護の連携プレー」で暮らしを支える

例えば、脳卒中の後遺症を抱えて退院した方の場合、支える側の役割は医療からリハビリ、介護へと変わっていきます。地域には、このような医療と介護の両方を必要とする高齢者がこの先増えていくと見込まれています。そこで、医療においては、岡山県の地域医療構想の中で地域医療の役割や機能を明確化し、質の高い医療を効率的に提供するための体制づくりを進めることとしています。さらに、適切な医療・介護サービスを切れ目なく提供するには、専門職同士の「顔の見える関係」が欠かせないため、市内の医療、介護の専門職の皆さんが積極的に集まって情報交換を行い、交流を深めながらお互いの知識を広めています。

表1 「平均要介護期間」の都道府県順位

男性		女性	
1位	佐賀県 1.42	1位	佐賀県 2.95
...		...	
44位	岡山県 1.82	38位	岡山県 3.68
全国	1.68	全国	3.49

奈良県ホームページ「都道府県別65才時の健康寿命(平均自立期間)平成27年」より